

# ひょうごの遺跡

国境の峠のふもとに…



## 古代山陰 道の駅を発見!?

### 朝来郡山東町 柴遺跡の発掘調査

柴遺跡は朝来郡山東町の東の端、柴という集落の北側にあります。この場所は但馬・丹波の国境に位置する遠阪峠のふもとにあたります。国土交通省が計画する「北近畿豊岡自動車道」は、大阪・神戸方面と但馬地域とを短時間で結べるよう、着々とその建設が進められていますが、その建設予定地内の2,400㎡を、平成12年11月から平成13年3月までの間に発掘調査しました。

調査の結果、柴遺跡が、奈良～平安時代の遺跡であること、さらに、都と西日本の日本海側を結ぶ古代山陰道に設置された駅（駅家）に関連する遺跡であることが明らかになりました。駅家運営の実態を示した木簡（文書として用いられる木の札）が見つかったからです。

また、現在まではっきり位置がわからなかった駅家（粟鹿驛家）の場所がほぼ特定できたことも、重要な成果となりました。



丹波・但馬国境の遠阪峠（但馬側より）



「驛子」の文字が書かれた木簡の出土状況



## 駅子…

「<sup>えきし</sup>駅子である<sup>しどりべのとよたり</sup>委文部豊足が（稲）十束の代わりに<sup>もみこく</sup>稲粃一石を納めた。」という意味です。「尺」は昔の容積の単位で「石」と同じ意味です。<sup>えきし</sup>駅子の仕事は、駅を通る使者の接待、この使者が利用する馬の飼育、およびこの使者を次の駅まで送り、また駅馬を曳いて帰ることなどの労役がありました。そのうえ駅子は、駅の経費をまかなうために駅田を耕作していました。駅子は強制的に稲を貸し付けられ、秋の収穫時には高い利息を返さねばなりませんでした。

「> 驛子委文部豊足十束代稻粃一尺」

## …癸卯日…

「今月三日（みずのと、卯の日）に物を送る」といった内容が書かれています。この木簡は日付の書き方に特徴があります。それは、「三日」「<sup>きぼうにち</sup>癸卯日」という様に暦日と干支の二種類の書き方が見られることです。このような書き方は、奈良～平安時代に使われた<sup>ぐちゅうれき</sup>具注暦という暦に見られます。具注暦は日付の下に干支だけでなく、吉凶や季節の変動などを具（つづさ）に書き込んだものです。この暦は都で<sup>おんみょうじ</sup>陰陽師によって作られ、各国の国府や駅家などに配られ、一部の役人だけがこの暦を知ることができました。

「以今月三日癸卯日送物口」

## 遠方の友

中国の思想家、<sup>こうし</sup>孔子が教えた『論語』の一節が書かれていました。論語の<sup>がくしへん</sup>学而篇という箇所「子いわく、<sup>まとも</sup>学ばしからずや。朋、遠方より来たる有り。また楽しからずや。人知らずして<sup>うら</sup>慍みず、亦君子ならずや。」と記されています。このうち、太字の部分が木簡に記されていました。裏面にもこの次の章が書かれていました。『論語』を何枚もの木簡に書き分けた一部が出土したもの、または習書（文字の練習）と考えられます。

（裏）・子乎有子

（表）・悦乎有朋自





柴遺跡の様子（全景写真）

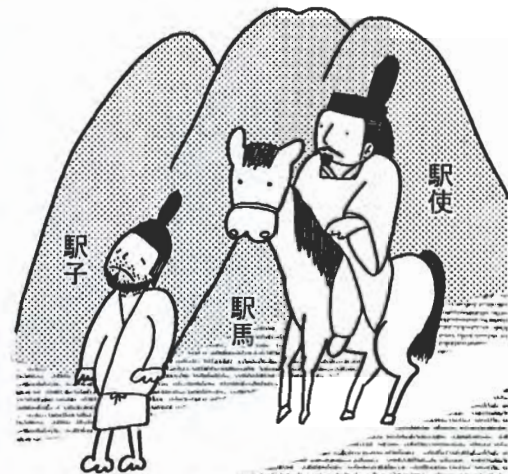
### 古代の山陰道について

奈良時代までに、都と日本各地を結ぶ道路網が整備されました。柴遺跡のある山東町は、古代の山陰道が通っていました。山陰道は、都と、西日本の日本海側とを結ぶ街道です。都から京都府船井郡園部町を経て、兵庫県篠山市さらに氷上郡に入ります。ここまでが丹波国で、その後遠阪峠を越えて但馬国、朝来郡に入り、養父・美方郡を経て、鳥取・島根県方面に至ります。こうした街道に沿って駅家（駅の施設）が設けられ、駅使（官用の使者）に宿と食糧を提供し、また駅使はここで馬を乗り換え、新たな人足をとめない、次の駅家へと旅立ちました。このような駅家は、原則として約16kmごとに設置されましたが、地形条件などによっては近くなったり遠くなったりします。

### 柴遺跡について

柴遺跡の調査地は、国道427号線の約200m北側にあります。現在の国道と古代山陰道は、山東町東部ではほぼ並行すると考えられています。

調査地は二つの谷にはさまれた小高い場所で、駅家関連の建物の跡が見つかりました。建物の痕跡は柱を据えるために掘った穴という形で見つかりますが、その柱穴の中から「駅子」で書き出される木簡が出土しました。また、建物跡群が見つかった東西両隣では、昔の川の跡が見つかりました。「駅子」木簡以外の木簡はすべて川を埋めた砂の中から出土しました。木簡でも不要になったものはすべて川に捨てられたのでしょうか？このほかに川の跡からは当時使われたお金（神功開寶）が出土しました。



駅使の旅の様子

### 粟鹿驛家について

柴遺跡は、山陰道に設置された駅家のうち、粟鹿驛家に関する遺跡であると考えられています。粟鹿驛家は、朝来郡山東町内に置かれたことはわかっていますが、粟鹿という地名は山東町東部の広い範囲を指す地名で、正確な位置はこれまではっきりしていませんでした。柴遺跡のある「柴」という集落のほか、「一品」や「和賀」といった集落が駅家の候補地として考えられていました。ところが「駅子」木簡が出土した結果、柴に駅家が置かれた可能性が高くなりました。

この他に置かれた駅家は、丹波方面へは佐治（青垣町）・星角（氷上町）。反対の鳥取方面へは郡部（養父町）・養耆（八鹿町）等へと続きます。

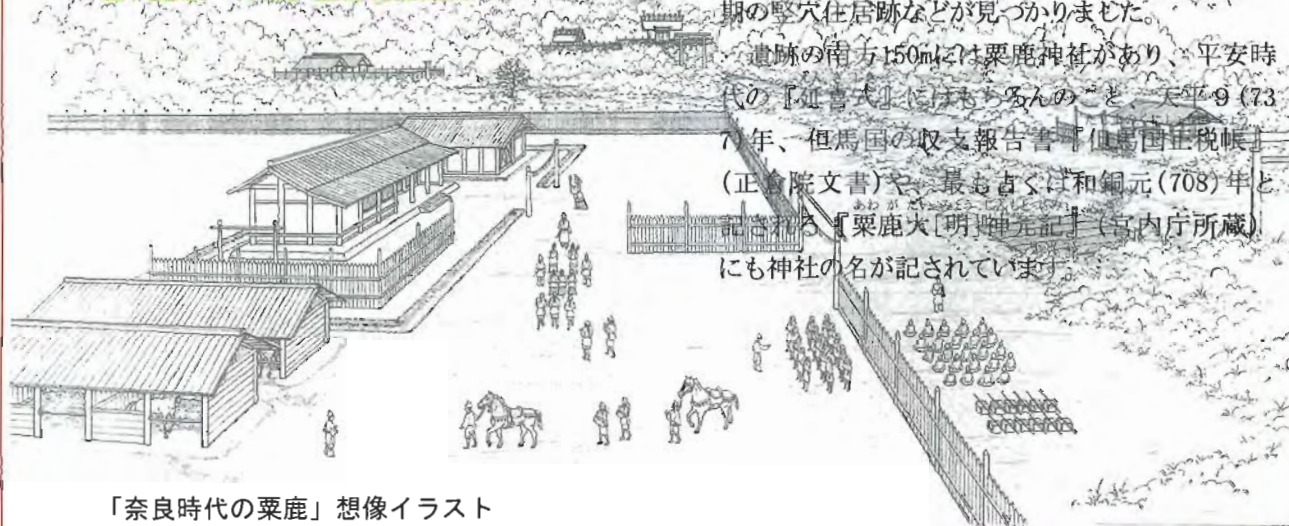


奈良時代の貨幣「神功開寶」も出土しました。



# 粟鹿遺跡

— 古代粟鹿神社関連施設と  
古代豪族「神部」墨書土器出土 —



「奈良時代の粟鹿」想像イラスト

## 建物

方形に巡る溝で区画された中に規則的に配置された建物群があります。中心となる建物は3間×6間の南北棟で庇があります。その南側には東西棟の3間×5間の脇殿的な建物が、また北側には1間×6間の東西方向に細長い建物があり、馬小屋かもしれません。



## 文字

今回発掘された墨書土器には「神」或いは「神マ」と読める文字が発見されました。これは和銅元（708）年に神部直根閉（ミワベノアタイネマロ）により朝廷に報告された『粟鹿大[明]神元記』に書かれている古代豪族名「神部直」を示すものでしょう。

今回発見された建物群は、古代豪族「神部直」が祭主を務めた古代粟鹿神社の施設の一つで、但馬国司や但馬国内の郡司などの要人を迎え、祭の準備を行う迎賓施設「着到殿」かもしれません。

また『粟鹿大[明]神元記』は粟鹿神社の祭神と歴代祭主である「神部直」との関係を記録したもので、その記載の仕方や仮名づかいなどは『古事記』より古いとの説もある貴重な資料です。今回出土した墨書土器の「神マ」の文字は「神部直」の存在を確認できる考古資料として『粟鹿大[明]神元記』に記載された系譜図の信憑性を高めるとともに、当時の状況を考えるうえで貴重な資料と言えるでしょう。

粟鹿の地では柴遺跡（粟鹿驛家）が確認され、考古学・古代史研究にとって、重要な位置を占めることから、今後当地の発掘調査に期待が高まります。



建物跡群と粟鹿神社・粟鹿山



## 奈良時代の小さな村

### 梶原遺跡と梅ヶ作遺跡

山東町<sup>がくおんじ</sup>楽音寺集落と和田山<sup>ほうじゅ</sup>との境は、宝珠峠と呼ばれています。曲がりくねった峠道を越えると、やがて視界が開けて、遠くに和田山町<sup>かつ</sup>加都の平野が見えてきます。

山東町と和田山町周辺には、「山陰道」、播磨国と但馬国<sup>たじまみち</sup>を結ぶ「但馬道」が通り、この2つの街道が合流しています。宝珠峠越えの道も、この2つの街道をつなぐ道として、古くから利用されてきたのでしょう。



梶原遺跡の建物跡



梶原遺跡・梅ヶ作遺跡の周辺（左端が宝珠峠）

梶原遺跡と梅ヶ作遺跡は、ちょうどこの宝珠峠にさしかかる山のふもとに営まれた奈良時代の集落遺跡です。

2つの遺跡では、掘立柱建物跡や旧河道が見つかりましたが、とくに梶原遺跡で発見された建物跡のまわりからは、焼け土や炭などに混じり、多くの土器が出土しました。遺跡には山が迫り、建物を建てる場所が狭いため、山の斜面を切り開いて、土を平坦に敷きならす工事を行っています。このような山のふもとで、奈良時代の人々はどのような生活をおくっていたのでしょうか。



奈良時代の山東町周辺の様子



## 円山川を見下ろす古墳群

にしやま  
西山8古墳群（養父郡八鹿町）

八鹿町の中心部から北東方向、出石町との境に近い丘陵上に築かれた古墳群です。眼下には円山川が北へ流れています。ふるさと農道整備事業にともなって調査しました。

発掘調査した古墳は全部で12基です。古墳の盛土（墳丘）がよく残っていて、調査前には尾根筋に古墳が並んだ様子が階段のように見えました。

調査してわかった古墳について紹介しましょう。この古墳は山の斜面を削って平らにしたところへ、土を積み上げて墳丘を造っています。この盛土が一つの古墳、ということになります。



階段状に築かれた古墳



発掘調査風景

古墳の大きさや形は様々ですが、それぞれに1か所、死んだ人を葬る場所を造っています。土盛りの上に長方形の穴を掘り、木で組んだ棺を直接埋めたものがほとんどです。棺は埋めたあと、長い年月の間に腐ってしまい、残っていません。しかし、土の色や固さなどの微妙な違いから棺の痕跡を確認することができました。

古墳の周りからは、亡くなった人へ供えられた玉類や土器が出土しました。これらの特徴から、古墳は5世紀を中心に造られたと考えられます。

## 古代須恵器生産の新資料

とべら  
戸牧1号窯（豊岡市）

豊岡市街地の南側、但馬空港に近い谷間に戸牧1号窯は所在します。公立豊岡病院の造成に先立って調査を行いました。最初ここに窯跡があることは知られておらず、遺跡の有無を確認する調査で始めてわかりました。窯跡ののこり具合は比較的良好で、窯の構造などがよくわかりました。

戸牧1号窯は、山の斜面をやや掘り下げ、構築材で天井部を作って窯を覆う半地下式と呼ばれるタイプの窯です。窯の上部にある煙を排出する煙出しと呼ばれる部分から溝が延びていましたが、これは島根県から石川県で見つかった須恵器の窯跡に共通する特徴です。

窯体内部には少量でしたが、須恵器の杯類や高杯が残されていました。これらの須恵器から、この窯は古墳時代末期（7世紀中頃）に生産活動を行っていたと考えられます。

これまで但馬地域では、須恵器の窯跡は30基ほどしか知られておらず、特に発掘調査された窯跡はわずか数基しかありません。今回の戸牧1号窯の調査では、日本海沿岸地域と共通した窯の構造をもつことがわかるなど、今後、但馬地域の須恵器生産を考える上で貴重な資料となりました。



戸牧1号窯の全景



## 丹波の大集落と古墳

## 桂ヶ谷遺跡群（篠山市）

## 桂ヶ谷・桂ヶ谷口遺跡



密集する竪穴住居跡（桂ヶ谷遺跡）

桂ヶ谷遺跡群は篠山市の西部、旧多紀郡丹南町の篠山川を望む丘陵の北向きのゆるやかな傾斜地にあり、桂ヶ谷遺跡などの遺跡や古墳があります。県立丹波並木道中央公園整備事業に先立って平成11年度から発掘調査を行い、今年度も継続して調査します。今回は発掘調査で得られた成果を紹介します。

これまでに桂ヶ谷遺跡と桂ヶ谷口遺跡の調査を行いました。竪穴住居跡や掘立柱建物跡などを多数検出し、弥生時代後期から古墳時代後期まで続く集落であることが判明しました。

竪穴住居跡は約70棟見つかりました。竪穴住居の平面形は、弥生時代は円形が多く、古墳時代になると方形になります。竪穴住居跡のある場所は、現在でもわずかに地面がくぼんでおり、調査した場所以外にもまだ多くの竪穴住居跡があるようです。掘立柱建物跡は約20棟確認しました。その中には、大きく、深い柱穴を掘った大規模なものもあります。



弥生時代の竪穴住居跡（桂ヶ谷口遺跡）



古墳時代の掘立柱建物跡（桂ヶ谷遺跡）

## 桂ヶ谷奥古墳



墳丘の断面

桂ヶ谷奥古墳は、調査前より高い墳丘と露頭した石材が残っており、横穴式石室に棺をおさめた古墳であることがわかっていました。

墳丘は直径約15m、石室は長さ7m、幅1.5m、高さ2.3mを測るもので、石室内には、棺は残って

いませんでしたが、数多くの土器や鉄製品・玉類が出土しました。出土した土器から古墳は、6世紀末から7世紀の初めに築かれたものと考えられます。また、墳丘の断面を観察すると、盛り土の状況がよくわかります。



石室内の土器が出土した状況



## この夏、竪穴住居で生活してみませんか？

美方郡美方町の古代体験の森では、上ノ山遺跡の調査成果をもとに復元した縄文時代の竪穴住居や、弥生時代・古墳時代の竪穴住居・高床式倉庫・体験棟の建物があります。竪穴住居に泊まったり、古代食を食べたり、石器や土器を作ったり、布を染めるなどいろいろな体験学習のメニューがそろっています。

連絡先 美方町教育委員会

電話 0796(97)-3111



古代体験の森（美方町教育委員会提供）



石ヶ堂古代村（養父町教育委員会提供）

養父郡養父町の石ヶ堂古代村は、石ヶ堂洞穴遺跡を中心とする、栗材を利用した茅葺きの復元竪穴住居・高床式倉庫の並ぶキャンプ場で、竪穴住居での宿泊や、火おこし・土器づくり・勾玉づくりなどの体験ができます。

連絡先 養父町教育委員会

電話 0796(64)-0281

夏休み、都会の生活を離れ、但馬の縁あふれる自然の中で、古代の生活体験はいかがですか？

## 平成11年度年報 ができました！

年報とは、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所の1年間の仕事をまとめたものです。

兵庫県下最大級の古墳時代集落、柿坪遺跡（山東町）、古代氷上郡衙（郡の役所）跡と考えられる市辺遺跡（氷上町）など、平成11年度に調査した遺跡の紹介と、新たな調査手法の紹介などを掲載しています。

また、今回は、国立歴史民俗博物館教授平川 南氏より「市辺遺跡の木簡について」、姫路工業大学助教授森永速男氏より「大陣原窯跡の考古地磁気年代」をご寄稿いただき、掲載いたしました。

A4版 カラー4ページ、本文100ページ

なお、平成9・10年度年報も残部が少しあります。

年報についてのお問合せは、埋蔵文化財調査事務所まで。

## ホームページ 随時更新中！

『ひょうごの遺跡』は、兵庫県埋蔵文化財調査事務所が行う発掘調査情報を年4回お知らせしています。また、当事務所のホームページでも、発掘調査の成果などをお知らせしています。

ホームページでは、『ひょうごの遺跡』にまだ載せていない最新の発掘調査成果や現地説明会などのイベント情報など、最新情報を掲載しています。

ぜひ、一度アクセスしてみてください。

埋蔵文化財調査事務所のホームページは ↓

Go!ACCESS ▶

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>



文化財愛護シンボルマーク

## 編集後記

春が過ぎ、今年度の発掘調査が始まりました。今年にはどんな発見をお知らせできるのでしょうか？

今年も当事務所の職員が皆様のお近くへおじゃまするかもしれません。今年には各現場で発掘調査をよく見ていただけるよう、様々な工夫をする予定です。お楽しみに！

(N. S)